

2. 議会報告(6月定例会での私の一般質問の概要)

質問1. 史跡である城山公園(堀之内地区)の整備について

(Q1) 現在の進捗と整備に向けた取組状況について

(答):次世代へ確実に継承するため、文化庁と協議を十分に重ね、令和元年度に「保存・活用計画」を策定。現在は第2期整備基本計画の素案を作成中。

(Q2) 第2期整備計画の目的と整備方針について

(答):目的は、史跡松山城跡を次世代へ確実に継承するため、歴史的価値を高め、学習や観光等にいかしていくこと。

整備の方針として、史跡の歴史的価値を伝えるため、発掘調査の成果等に基づき、江戸時代の道路や区画、地形などを再現し、本丸跡と二の丸跡に一体性をもたせる。

また、学校教育や生涯学習の場をはじめ、観光資源や災害時の緊急避難場所等、多くの機能を備え、市民の皆さんや、松山市を訪れた方が、様々な目的で利用できるよう、そして、史跡と都市公園が調和するよう、整備していく。

(Q3) 松山城跡の内堀の整備について

(答):内堀を復元するには、対象物の規模や形態、位置等がわかる当時の写真や絵図をはじめ、発掘調査の成果など、多くの情報をもとに、史跡松山城跡整備検討会で審議し、文化庁と協議する必要がある。



▲松山城下町宝暦図(個人蔵)の一部
※「史跡松山城跡保存活用計画」より再掲

また、内堀があった場所は、現在、市民や観光客が日常的に利用している駐車場や道路などがあり、これらの施設を廃止するには、代替案を検討し、市民の理解や、関係機関との合意も必要です。そのため、内堀を復元するには、十分に発掘調査をする必要があり、道路の利用状況調査や関係機関との調整等に時間を要するため、第3期以降に整備するよう検討していきたい。

第2期整備では、内堀があったことを説明板で周知し、これまでの発掘調査の結果をもとに遺構の一部を再現して、市民に歴史的価値の認識を深めていただきたい。

城郭に堀は欠かせないものだと思いますが、南堀端や西堀端として残っている外堀も、戦後まもなく、埋立ての危機がありました。埋め立てられた「内堀」については、それが存在したことすら知らない市民が多いのが、非常に残念です。

松山城の歴史的価値を市民に再認識してもらい、松山城の保存に対する機運を高めていただき、市民の力を結集して、市民の手で守っていくというプロセスが大事だと考え、質問しました。



質問2. 環境にやさしい循環型のまちづくりについて

(Q1) 食品ロスの削減について

① 2月に実施したフードドライブ活動の結果と食品を提供した市民の声について

(答):2月に3日間実施したところ、飲み物や食品が合計3,184個、1,085キログラムの食料が提供された。市民からは「有効活用されるのでうれしい」「この活動をもっと広げて欲しい」等、好意的な声を多くいただいている。

② 今後、フードドライブ活動をどのように展開するのか。

(答):フードドライブ活動は、食品ロスの削減にもつながるため、今後は、これまでの大型商業施設のほか、市内の事業者やNPO法人等と連携して開催するほか、本市主催のイベントの機会も活用しながら、開催数や開催団体を増やすとともに、市民へフードドライブ活動を周知することで、普及を図りたい。



▲フジグラン松山の会場

(Q2) プラスチックごみの削減について

① プラスチックごみの削減にどのように取り組んでいくのか。

(答):マイバッグやマイボトル等の利用を呼びかけるとともに、使い捨てプラスチックの削減をテーマとした講座の開催等に取り組んできた。今後も、こうした取組等を通して、プラスチックと賢くつきあう、プラスチックスマートを啓発し、ライフスタイルの変革を促していきたい。

② プラスチック資源循環促進法の成立により、本市にどのような影響が生じるのか。

(答):新法では、現在、本市がリサイクルしているペットボトルやプラスチック容器等に加え、歯ブラシやバケツなど、製品プラスチックごみのリサイクルも求めている。これにより、リサイクル率が向上する一方で、リサイクル量が増えることにより、処理費用が増えるほか、市民の皆さんには、分別方法の変更をお願いすることが必要になる。

(Q3) ごみのリサイクル率の向上について

① リサイクル率の定義について

(答):プラスチック製容器包装や紙類等の資源回収量が、ごみの総排出量に占める割合のこと。

② リサイクル率の目標達成に向けて今後どのように取り組むのか。

(答):使用済み紙おむつは、現在、本市の焼却処理量の約8%を占め、今後の高齢化により、さらに増加が見込まれる。リサイクル率を向上させるためには、おむつの再生利用が有効となるため、現在、先進的に取り組む企業等の情報を収集している。新たなリサイクルの推進とともに、食品ロスや使い捨てプラスチックの削減によるごみの減量化や、リサイクル可能な紙類等の分別促進による資源回収量の上積み等で、リサイクル率を向上させ、目標を達成していきたい。



昨年12月の議会では、「フードドライブ活動」について所見を質問しました。その際、理事者から、実施に向けて検討するとのお返事をいただき、早速、今年2月には大型商業施設で、フードドライブ活動が実施されました。市長の強いリーダーシップのもと、迅速な開催が実現したことは、大きな成果だと思います。本市独自の取組を進め、この活動が定着していくように、力を尽くしていきます。



質問3. 公共スポーツ施設の活性化について

(Q1) 坊っちゃんスタジアムについて

① ナイター照明設備をLEDに変えたが、使用者の反応はどうか。

(答):選手からは「明るくなりボールが見やすくなった」、観客からは「球場の遠くまで見渡せるようになった」等の声をいただいている。

② LEDに変えたことにより、電気代は年間どれくらい安くなる予定なのか。また、ナイター照明設備の使用料金は見直すのか。

(答):電気代は年間で約40%、24万円の削減が見込まれる。ナイター照明の改修に多額の経費を要しているため、直ちに使用料の引き下げにはつながらないが、今後の収支や、社会経済情勢等をふまえ、精査したい。

③ スコアボードはどのような改修になるのか。

(答):画面のフルカラーLED化により、大画面で迫力のあるリプレイ映像を流すほか、新たに、球場内に固定カメラを設置し、観客が応援する様子をスコアボードに映すことで、選手と観客が一体となって試合を盛り上げることができる。

(Q2) 北条スポーツセンター野球場について ※利用者の反応はどうかや、利用促進のためにどういった取組を考えているのか等を質問しました(答弁はスペースの関係で割愛)。

(Q3) 今後、公共スポーツ施設全般をどのように活性化させていくのか。

(答):利用者の声をうかがいながら、利便性の向上に努め、それぞれの施設の特性をいかして、活性化に取り組んでいく。



←本市ホームページより↓

